

| | | | | | |
|---|--------|------|---|-----|------------------|
| 科目名称:保育内容(造形表現)指導法 I | | | | | |
| 担当者名:永坂晃子 | | | | | |
| 科目群(区分) | 開講予定時期 | 授業形態 | 必修・選択 | 単位数 | 卒業認定・学位授与の方針との関連 |
| 専門展開 | 2年前期 | 演習 | 必修 | 1 | 子ども福祉学科(3) |
| アクティブ・ラーニング実施の有無 | 実施有り | | ナンバリング | | 24106261 |
| 授業概要:子どもの造形表現について発達の基礎を学ぶ。また、表現行為を心理学的知見から理解し、保育・福祉の場での美術表現の意義を学んでいく。さらに保育現場における造形表現活動の具体的方法を身につける。 授業は主に自らが体験的に学ぶ演習形式である。演習から得た自分自身の感覚や感情、思考を分析することから理論の理解に繋げる。 | | | | | |
| 到達目標:各演習課題の意図と内容の理解から、五領域の一つである「表現」についての理解を深める。 | | | | | |
| 授業計画 | | | 準備学習とその所要時間(分) | | |
| 第1回 領域「表現」のねらいと内容 | | | 「幼児と造形表現」の振り返りと十分な理解(80) 課題レポート(30) | | |
| 第2回 生活の中での様々な色、形、手触りに気付く | | | 課題レポート(30) | | |
| 第3回 子どもの「描く世界」を体験する(1)錯画期の子どもたち | | | 指示された物品の準備(20) 課題レポート(30) | | |
| 第4回 子どもの「描く世界」を体験する(2)図式期の子どもたち | | | 指示された物品の準備(20) 課題レポート(30) | | |
| 第5回 子どもの絵画表現の発達段階(1)心理的発達段階との呼応 | | | 第3回、第4回授業の課題レポートの振り返り、発達段階の復習、教科書 p.63～71 の予習(90) | | |
| 第6回 子どもの絵画表現の発達段階(2)描くという行為にみる内面 | | | 第5回授業の復習、発達段階の復習、教科書 p.71～79 の予習(90) | | |
| 第7回 障害児・障害者の絵画・美術表現の世界(1)障害特性と表現の特徴 | | | 課題レポート(120) | | |
| 第8回 障害児・障害者の絵画・美術表現の世界(2)表現をどのように理解すべきか | | | 課題レポート(120) | | |
| 第9回 福祉現場における、絵画・美術の応用 | | | 課題レポート(90) | | |
| 第10回 造形活動のプランニング(1)実践演習 | | | 演習授業材料準備、グループでの事前相談(120) | | |
| 第11回 造形活動のプランニング(2)他領域とねらい | | | 課題レポート、教科書 p.83～91 の予習(90) | | |
| 第12回 造形活動のプランニング(3)年齢とねらい | | | 課題レポート(40) | | |
| 第13回 造形活動のプランニング(4)環境構成 | | | 課題レポート(120) | | |
| 第14回 身体的な表現活動 | | | 課題レポート(30) | | |
| 第15回 まとめ | | | 全授業回の振り返り(90) | | |
| 履修に必要な予備知識や技能:子どもの発達段階の理解、他の保育内容科目の理解、科目「幼児と造形表現」の理解 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック:課題レポートは添削の上、課題ごとに10段階、5段階等の評価を付し、返却する。授業シートなど提出物へのコメント。 | | | | | |
| 評価方法・基準:課題レポートおよび他提出物 70% 受講態度 30% | | | | | |
| 教科書:教科書:「保育をひらく造形表現」槇英子(萌文書林) | | | | | |
| 参考書:「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型こども園 教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説書」 | | | | | |
| 備考:保育は、他の分野とも連動して学ぶことが理想です。本科目は大学・学科行事や他の関連科目の進行等を考慮してフレキシブルに展開します。 | | | | | |
| 実務経験の内容・期間:特別支援学校教諭(2年)、保育士(2年)、中学校教諭(1年)、美術造形活動講師(12年) | | | | | |